

2. 貞山運河再生・復興ビジョン検討

河川・海岸グループ
研究員 千葉 潤一(現 株式会社ドーコン)

目次

1

1. 貞山運河をはじめとする運河群
2. 貞山運河再生・復興ビジョン検討とは
3. 運河群の歴史・現状等について
 - 3-1. 被災状況
 - 3-2. 歴史
 - 3-3. 自然
 - 3-4. 風土・景観・文化
 - 3-5. 利活用
 - 3-6. 社会的条件
 - 3-7. 河川に係るまちづくり等の実施例
4. まとめ

1. 貞山運河をはじめとする運河群 2

日本一長い運河群
 阿武隈川から旧北上川まで、総延長約49kmにわたり、貞山運河、東名運河、北上運河からなる日本一長い運河群であり、古くは舟運を目的として江戸時代に建設が始まったもので、現在では治水や利水といった機能に加え、歴史、環境、景観等の魅力を有する土木遺産である。

公益財団法人リバーフロント研究所

2. 貞山運河再生・復興ビジョン検討とは 3

運河群（貞山運河・東名運河・北上運河）の歴史を未来へと繋ぎ、運河群を基軸とした沿岸地域の再生・復興を目指すための指針

東日本大震災の**経験と教訓**を糧として、沿岸地域の災害復旧を、運河沿川地域が抱えてきた**課題を克服する機会とする**。
 亡くなられた**多くの方々への鎮魂**とともに、震災を契機とした国内外との“絆”を継承し、再生・復興活動を地域全体で継続していく。
震災の記録とともに、建設後400年を超える貞山運河や、“野蒜築港”に係る東名運河、北上運河の**歴史**を正しく伝承し、その魅力を**沿岸復興**に活かしていく。

運河群を基軸とした再生・復興ビジョンとは、**治水や防災機能を一層強化**し、歴史的な公共土木施設として**次世代に継承**するとともに、**豊かな自然環境を、歴史的な景観**とともに保全・復元し、沿岸地域の再生・復興を**国内外へ情報発信**する未来志向の取組みを目指すための羅針盤となるもの。


宮城県が主体となり平成25年5月に策定

公益財団法人リバーフロント研究所

2. 貞山運河再生・復興ビジョン検討とは 4

貞山運河再生・復興ビジョン検討座談会

「貞山運河再生・復興ビジョン」の検討にあたっては、学識経験者等により構成された座談会を設置し、各専門分野からのご意見・ご提案をいただいた。



第1回座談会(11/5) 第2回座談会(2/4)

座談会委員(座長を除き五十音順、敬称略)
 【座長】竹村 公太郎(公益財団法人リバーフロント研究所 代表理事)

神尾 文彦((株)野村総合研究所 社会システムコンサルティング部 部長)

越村 俊一(東北大学 災害科学国際研究所 教授)

高橋 幸夫(みちのくルネッサンスフォーラム 代表)

田中 仁(東北大学大学院 工学研究科 教授)

西脇 千瀬(地域社会史研究者)

平吹 喜彦(東北学院大学 教養学部地域構想学科 教授)

宮原 育子(宮城大学 事業構想学部事業計画学科 教授)

公益財団法人リバーフロント研究所

3. 運河群の歴史・現状等について 5

運河群の歴史・現状等について、関連資料の整理・分析を行い、ビジョンの方針へ結びつける。

被災状況
歴史
自然

↓

風土・景観・文化

利活用
社会的条件

各項目における現状と課題の分析

↓

貞山運河再生・復興ビジョンの基本方針や目標

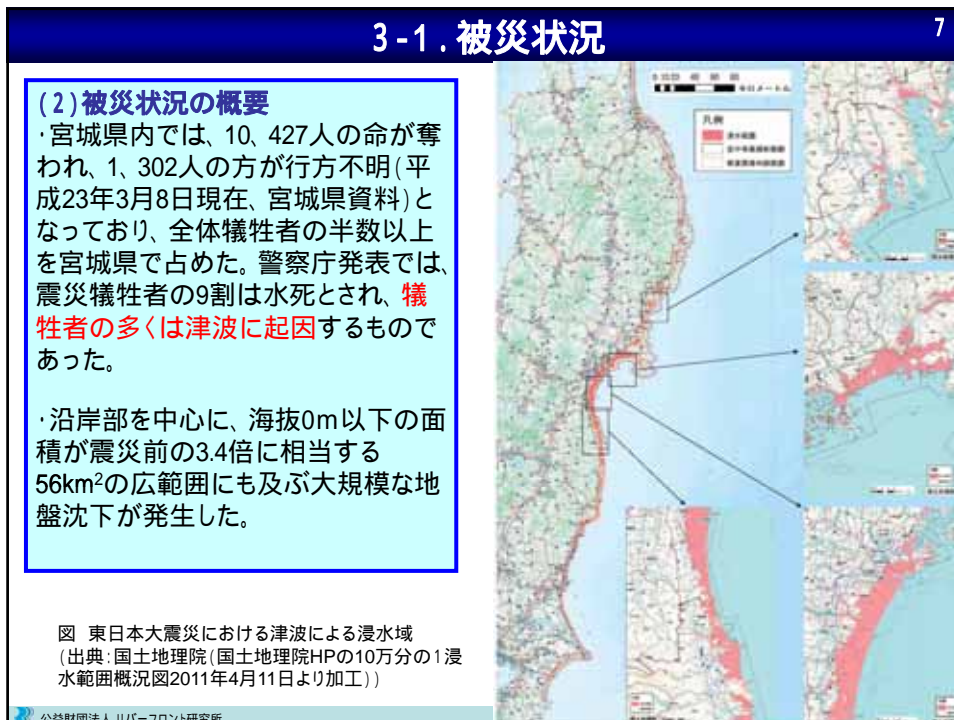
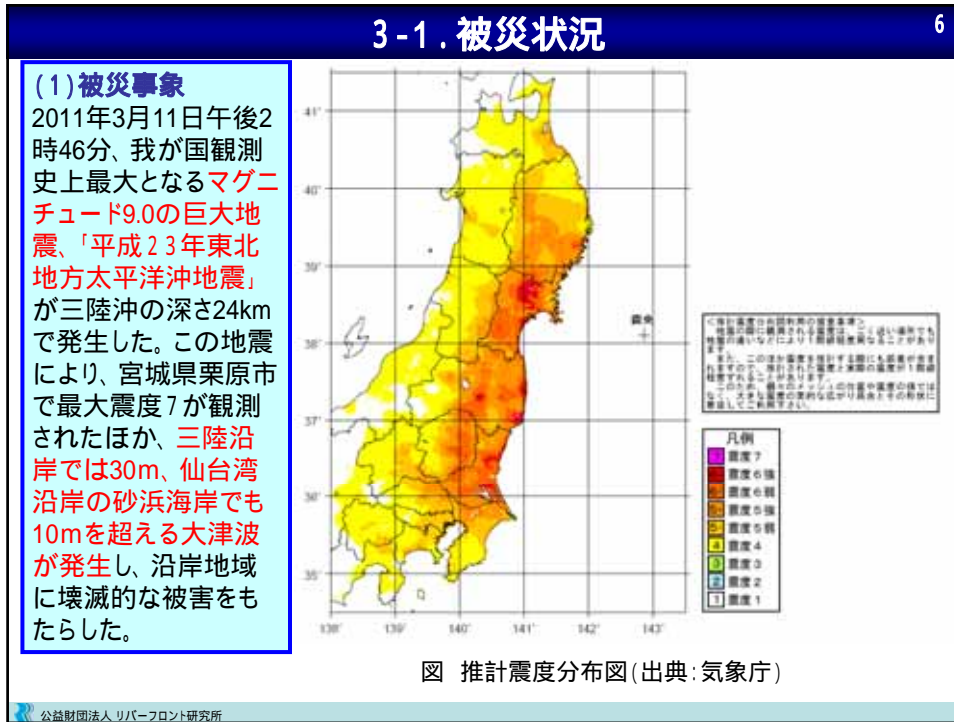
河川に係わるまちづくり等のプロジェクトの実施事例に関する資料整理

国内事例

- ・施設の整備～管理～運営へのPFIの採用事例
- ・関連事業や諸活動への企業支援(CSRなど)などの事例
- ・民間企業やNPOなど地域活動組織の積極的な参加により**民間活力**を取り入れた事例

海外事例

- ・地域再生、自然再生、生態系サービスの享受を目指した事例
- ・再生エネルギーの利活用を目指した事例



3-2. 歴史 8

(1) 歴史経緯

- ・貞山運河は、伊達政宗が仙台城下の整備のための物資輸送路として開削した木曳堀に始まり、御舟入堀の開削、七北田川の付け替えにより仙台を支える重要な輸送路となった。
- ・明治に入り土族救済事業として新堀が開削され、野蒜築港計画に伴い東名運河、北上運河が完成し松島湾を含めると約60kmの運河ができあがった。

公益財団法人 リバーフロント研究所

3-2. 歴史 9

(1) 歴史経緯

- ・建設の経緯を考慮すると、松島以南の運河と松島以北の運河とは歴史的な位置づけは異なる。
- ・運河は湿地に開削されたことから新田開発のための排水施設としても機能したと考えられ、同時期に北上川の改修などにより新田開発、舟運路の整備が実施された。
- ・海岸沿いのクロマツ林の植林もこのころよりはじめられた。
- ・支倉常長がヨーロッパへ向けて出港してから、今年で400年になる。

公益財団法人 リバーフロント研究所

3-2. 歴史

10

(2) 歴史からみた課題・評価

- ・貞山運河の建設、関連河川の改修は**新田開発**や**物資輸送路**として宮城県圏域全体の地域開発・経営のための**基幹的なインフラ**だった。
- ・貞山運河は**仙台平野の新田開発の条件整備**をし、**江戸期の人口増**を支えるとともに、**地域集落の原型**を形成した。
- ・**松島(寒風沢島)**は、貞山運河と外航との**結節点**として**経済上、戦略上の重要拠点**であった。
- ・御舟入堀の一部は埋め立てにより消失している。
- ・これらの情報・認識がひろく共有される状況とはなっていない。
- ・新しい時代にふさわしい運河の機能・位置づけが明確になっていない。

3-3. 自然

11

(1) 地形条件、自然環境

- ・仙台湾海浜地域は、海から**砂浜～砂丘～後背湿地**が広がり、**多様で特徴的な地形や生態系**を構成している。
- ・後背湿地に開削された運河は、**湿地帯の排水条件を改善**し**新田開発**等を支えるとともに、**洪水時には治水上で重要な機能**を担っている。



3-3. 自然

12

(2) 自然からみた評価・課題

- ・運河沿いの一帯は、重要湿地500にも選定されており湿地環境として重要な位置づけにある。
- ・近年、湿地・干潟は埋め立て等により減少傾向にある。
- ・運河が各河川の最下流部を連結する形で水のネットワークを形成している。
- ・地震後に地盤沈下が生じており、水位条件の変化による環境や排水状況への影響が懸念される。
- ・水質的には、主に農地からの排水の受け皿となっていることや流動が少ないことから、閉鎖性水域的な課題を抱えている。

3-4. 風土・景観・文化

13

(1) 風土・景観・文化

- ・特別名勝の松島を擁しており、多賀城は特別史跡に指定されている。
- ・地理的条件等から野蒜築港や品井沼干拓などのプロジェクトが実施され、関連する土木遺産も多く残る。
- ・江戸期より始まった植林による海岸のクロマツ林が独特の景観を形成していた。

(2) 風土・景観・文化からみた評価・課題

- ・風土・景観・文化・貞山運河は後世に残すべき歴史的景観であることが指摘されている(司馬遼太郎、宮本常一)。
- ・重要な景観要素であるクロマツ林は、津波で被災し、景観が激変している。



3-5 . 利活用状況

15

(1) 利活用状況

- ・**灯籠流し**、**北上運河ライトアップ**などのほか、周辺では石巻川開き祭、塩釜みなと祭、名取夏まつり、関上朝市など多くのイベント等が行われていた。
- ・運河および周辺は、**散策路**、**サイクリングロード**、**公園**や、**ボート**などの**水面利用**に活用されていた。
- ・**潜在的には多様なニーズ**があり、多くの主体により様々な検討がなされている。

(2) 利活用状況からみた評価・課題

- ・**利用は地域レベル**でとどまっており、運河の持つポテンシャルが十分に活かされていない。
- ・**水面の利用ルール等が未整備**なこともあり、無秩序な利用もある。
- ・**利活用計画**にあたっては、多様なニーズの調整や**全体の調和**、**広域連携**が必要である。また、コーディネートや説明、指導などの**人材が必須**である。
- ・**災害時の避難システム**の整備は不可欠である。

公益財団法人リバーフロント研究所



3-6. 社会的条件

17

(1) 社会的条件

- ・交通インフラとしては、**鉄道や高速道が並走**し、仙台空港が隣接するほか、**石巻港・松島港・仙台塩釜港が一体管理**に移行する。
- ・**災害復旧および復興事業が国、県、市町**により進められている。
- ・**復興祈念事業**として復興祈念公園、三陸復興国立公園(再編)が計画されている。
- ・被災後の復旧等にあたっては、**国内のみならず海外からも多くの支援**を受けた。

(2) 社会的条件からみた評価・課題

- ・貞山運河との関係や進捗状況等を考慮しつつ、**全体の調和や広域連携、役割分担**についての調整も必要である。
- ・**災害を契機に築かれた関係を継続・強化し、経験に基づく教訓や知恵、感謝を貢献に換えていく方策**を検討する必要がある。

公益財団法人リバーフロント研究所



3-7. 河川に係るまちづくり等の実施例

19

(1) 事業等の実施主体

- ・ 県、市町など公共の主体のほか、**民間企業やNPOなど地域活動組織の積極的な参加による事例**(松江堀川の舟運(民間事業))
- ・ **地域活性化計画を対象とした支援施策を活用した事例**(運河ルネッサンス(占用許可)、道頓堀川～水の都大阪再生～(占用許可)、京橋川オープンカフェ事業(占用許可)、社会貢献寄付信託など)。
- ・ **施設の整備～管理～運営へのPFIの採用、関連事業や諸活動への企業支援(CSRなど)などの事例**(佐原広域交流拠点PFI事業～水の郷さわら～(PFI)、広瀬川1万人プロジェクト(CSR)、三井物産環境基金(CSR))

(2) 海外での事例(推進体制について)

- ・ **地域再生サービスの享受を目指した事例など: エムシャー川(ドイツ)など**

(3) 実施例からみた評価・課題

- ・ 事業実施に向けて様々な主体が参画することができる**推進体制を構築**することが重要である。

公益財団法人 リバーフロント研究所

3-7. 河川に係るまちづくり等の実施例		20
場所・時期:エムシャー(ドイツ)、エムシャー川、1989~1999年		
背景と目的	<p>ルール地方を西流しライン川に合流するエムシャー川流域は鉱工業地帯を形成していたが、1970年代を境とする産業構造の転換により経済の低迷、人口減少、さらに汚染された自然破壊や破壊された景観が残された。</p> <p>このエムシャー川流域を、産業遺産を活用しながら環境的に経済的に立て直すことを目的に地域活性化・地域再生プロジェクトが実施された。</p>	
実施主体	<p>IBAエムシャーパーク社(州政府全額出資の10年間の時限的な民間組織)</p> <p>・運営委員会:全体方向の決定(構成員:州政府代表、自治体代表、市民代表(労働組合、消費者団体、建築・都市計画専門家、環境保護団体、中小企業))</p> <p>・学術専門部会:実質的な運営推進(社長が統括責任者、各部会長(建築、都市計画、景観、ジャーナリズム、社会学、物理など各分野の学識経験者、専門家))</p>	
公益財団法人リバーフロント研究所		

3-7. 河川に係るまちづくり等の実施例		21
内容	<p>・緑地帯の再生 製鉄所跡のDuisburg北景観公園</p> <p>・河川水系の環境改善 下水管網の整備、河川の浚渫・修景・自然工法による再生</p> <p>・歴史的遺産の保全活用 ガスタンクを展示施設に、炭鉱をデザインセンターに、工場を公園に活用</p> <p>・産業パーク構想 市民活動・芸術活動に対する支援、既存産業施設を活用した産業・学術拠点</p>	
効果	<p>産業遺産を活用した大規模な地域再生の取組、歴史的環境を観光資源の基幹として、景観施策と連動させて保全・活用を図り、世界的な観光地として成功。</p>	
公益財団法人リバーフロント研究所		

4.まとめ 22

歴史経緯、自然条件等を項目別に整理した課題、評価を踏まえ、ビジョンに取り上げるべき事項を**10項目に整理した。**

- 貞山運河の**歴史的経緯**を踏まえ、地域の貴重な**共有財産**であることを再認識し、**運河と地域社会の関係**を再構築する。
- 災害の記憶**を風化させず、未来に向けて**強靱な地域社会**を構築する。
- 災害を契機**に築かれた**国内・国外との絆**を大切に、**経験を踏まえた知恵**を活かし必要な**情報を発信**する。
- 地形条件などにより構成された**自然環境**を貴重な財産であると認識し、**調和、共生**を目指す。
- 地域の風土・伝統・文化**を見つめなおし尊重する。
- 運河や連結された河川を**水のネットワーク**としてとらえ、**機能や価値**を再評価し保全・再生する。
- 空港、港湾と隣接している等の条件を活かし、**地域特性**や未来を見据えて**利用・活用**する。
- 多様な主体の参画**を期待し、そのための条件を整備する。
- 運河の認知度**や存在感を高め、一体感の広がりを醸成する。
- 着実に目的を達成するため、**推進体制**を整備する。

4.まとめ 23

これら10項目を体系化すると次の3つに整理される。

- 「**ビジョンの目標**に相当する項目」
- 「**ビジョンの目標を実現するための視点、方向性**に相当する項目」
- 「**推進体制**」

↓

これを基にビジョンの構成を次のように整理

- ビジョン策定の目的を「**基本理念**」
- ビジョンの目標を「**基本方針**」
- 実現に際しての視点、方向性を「**基本目標**」
- 視点、方向性に対応する「**施策**」と「**推進体制**」

↓

個別の具体的な施策については、**今後の広範な議論・検討**の中で構成されていくことになるが、現時点で記述可能な**具体施策**を**ビジョン**の中で**例示的に示した。**

↓

公益財団法人 リバーフロント研究所

4. まとめ(ビジョン体系図(H25年5月に宮城県が主体となり策定)) 24

基本理念
運河群(貞山運河・東名運河・北上運河)の歴史を未来へと繋ぎ、
運河群を基軸とした“鎮魂と希望”の沿岸地域の再生・復興

基本方針

人と自然と歴史が調和した、
人々が集う魅力的な
沿岸地域の復興

自然災害に対して粘り強い、
安全・安心な沿岸地域の再生

【4つの基本目標】

地域にとって誇りある歴史的な運河群としての再生	自然災害に対して粘り強く強靱な沿岸地域の構築
自然環境と調和し共生できる運河周辺環境の 保全・再生の推進	継続的な地域間の連携と、未来に向けて発展できる社 会環境の構築

10の主要施策と推進体制

【基本目標1】 ・運河にふさわしい景観の復元・創出 ・運河群と調和したまちづくりや施設整備の展開 ・歴史的な遺構の保全と復元	【基本目標2】 ・計画を超える災害に対して粘り強い地域社会の構築 ・多重防御による総合的な防災力の強化
【基本目標3】 ・自然と共生したまちづくりや施設整備の展開 ・運河にふさわしい水質への改善	【基本目標4】 ・沿岸地域の利活用発展を支える交通ネットワークの整備 ・未来に向けて発展できる社会環境の構築 ・国内外との“絆”の強化と、“共感と参加”の拡大

推進体制

【期別の目標】 **貞山運河再生・復興推進会議**

- 短期：被災した運河群および沿岸地域の一日も早い復旧、復興理念の共有化と参加
- 中期：運河群および沿岸地域における“集いの場”の再生と、広域的な連携の拡大
- 長期：運河群の歴史を未来へと繋ぐ、100年先を見据えたビジョンの発展

ご清聴ありがとうございました。